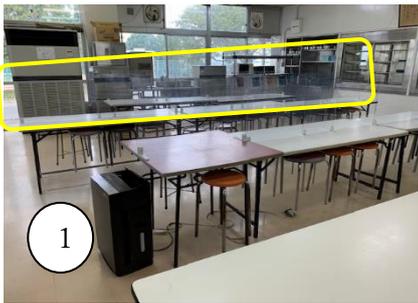
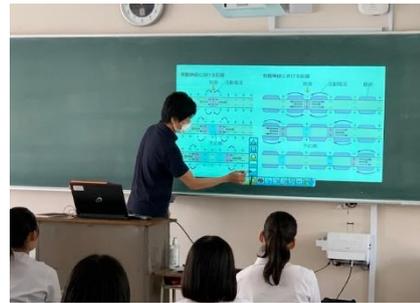


文部科学省から寮での新型コロナ対策として食堂でのアクリル板設置などの通知が来ました。本校では、以前にもお伝えしましたが、空気清浄機(①)と各テーブルに高さ50cmのアクリル板を設置しました。テーブルの上が仕切られるとかなり狭くなり、寮生には不評ですが、対策としては仕方ありません。校務員さんに組み立てをお願いし、各テーブルに設置していただきました。万全とは言いにくいながらも、寮生たちに手洗い、消毒や寮内でのマスク着用など協力してもらって対策を講じています。



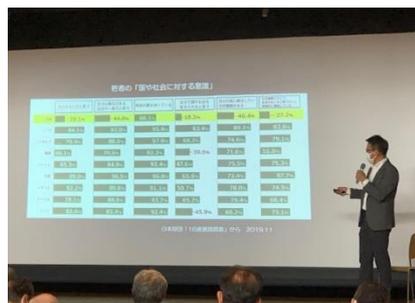
先ほどのアクリル板と合わせて文科省からの学習支援にかかる経費から調理室にエアコンを設置しました。10日には早速エアコン稼働させ、紅梅亭



の武田料理長指導のもと、生徒たちは赤飯、ブリの照り焼き、すまし汁を学習しました。9月9日の重陽の節句にちなんで、菊花豆腐のすまし汁にしました。また、県教育委員会が進めている「学びのイノベーション」推進事業により各学校に配置されたプロジェクターを使用しての授業が始まり

ました。Wifi環境は9月末に完成を迎えるためまだ使用できませんが、さっそく活用された授業をのぞいてみると黒板にパソコン画面を映し出し、授業を展開。以前は大型モニターのテレビに映し出していたのですが、職員の手が届かず生徒も顔を上げてみなければならず、苦勞されていたのが、フラットな形で授業ができるようになったと好評でした。Wifi環境が整えば、この授業を校外から見ることにも可能になるので、今回のようなコロナで休校中にも対応できるようになるということです。全職員での活用ができるよう研修をしながら進めていきたいと思っています。

さて、ネットのニュースに「長野県警を動かした女子高校生の『研究結果』手を挙げて横断歩道を！県内初の「マナー運動」のきっかけに」という記事がありました。よく読んでみるとその高校生が中学1年の時から研究をはじめ、6年間かけて集めたデータをもとに県警に提案し、マナー運動に結びつけたといった内容です。社高校前にもある「信号のない横断歩道での車の停車率を上げる」という課題解決です。長野県はこの停車率が全国1位で68%だそうです。それでも3割強の車は止まってくれないことから運転者の心理や歩行者の心理を考え、歩行者が手を挙げて待つようにすると車は止まりやすいという検証結果が得られたそうです。本校の前も交通安全週間になると白バイが校門前に待機し、取り締まりを行っています。歩行者も横断する際、気が引けるのか下を向いたり、携帯を触っていたり渡るのか渡らないのかの意思表示ができていないため車が止まらない場面を多く見かけますし、そういった経験は皆さんもあると思います。この高校生は実際に停車率の低い栃木県まで行って検証したそうですが、自宅前の横断歩道でも検証し、手を挙げなかった場合は35%の停車率だったものが手を挙げると88%まで上昇したという結果を得たそうです(ちなみにそのレポートは80ページにも及ぶ内容だったそうです)。日常の何気ないところにも課題はあって、地道に検証を重ねることで大きな成果や周りを動かすことにつながることを紹介してくれていました。皆さんの身の回りにもこういったことは数多くあると思います。疑問に感じる事、より良い行動に移したいことなど普段から感じられるようになってほしいと思います。よろしくお願ひします。



また9月10日には校長会生徒指導委員会で警察学校校長を務められたこともある関西国際大学山本教授の危機管理に関する講演を聞くことができました。緊急事態に報道からの取材を受ける際の対応の仕方等を伺うことができました。真摯に向き合うことの大切さを改めて実感した次第です。9月11日には普通科高校校長

会で横浜創英中学高校工藤校長先生の講演を聞くことができました。工藤校長先生は千代田区立麹町中学校の時に校則を撤廃し、生徒自身に考えさせる方法で学びの習慣をつけさせたことで一躍有名になった方です。日本の学校制度に関する問題点を指摘され、「手をかけすぎると子供は育たない、保護者、教員、生徒すべてが生活の当事者になる」など基本的

な話の中に、自立に向けたノウハウが詰まっているように感じました。中学1年生で教室をうろついたり、教室にいなかったりする生徒にはこれなければならないという指導から入るのではなく、「どうしたのか、何がしたいのか、教員は何が手伝えるのか」といった聞き方をしていくことで、自分たちで考え、次第に座って勉強するようになるという話でした。実際にはそこまで学校を変えていくには時間がかかります。生徒が落ち着くまでにはどの学年も7か月くらいはかかるそうですが、中学1年生でしっかりすることで2年3年は自分たちで考えて行動するという事です。そうすることで、今の日本の高校生が課題とされている将来設計や政治への関心、社会への関心・貢献といったこと等への意識が高くなる生徒が増えたということでした。確かに大人が先を読んでブレーキをかけすぎると生徒が考えるきっかけを失います。いきなり舵を切るのには難しいですが、生徒が考えて行動できるようにしていくことに関する共通理解を持ち、学校教育活動を行わなければならないことを実感できました。2日間にわたり、良い研修をさせていただきました。

9月12日は、来年度から小中一貫校として東条学園となるため今年最後の体育祭となる東条中学校へ行ってきました。翌日の新聞にも大きく取り上げられていましたが、密を避けるための工夫を施し、生徒全員に団扇を配布するなど熱中症対策も取りながら元気な中学生たちの活動を見ることができ、元気をいただいて帰ってきました。



さらに9月12日は女子サッカー部が本校で全国高校選手権大会兵庫県予選2回戦に挑みましたが、県立西宮高校と対戦し、0-3で敗戦となりました。3年

生も出場していたのですがここで3年間の活動を終えることとなります。お疲れ様でした。1・2年生は新人戦目指して頑張ってください。また、12日・13日とバスケットボールウインターカップ兵庫県大会東播地区予選が行われ、バスケット部女子は両日で勝利をおさめ県大会出場が確定しましたが、男子は13日北条高校との対戦で敗戦。引き続き県大会出場を目指し19日、20日と勝負です。頑張ってください。同日、陸上部は全国大会の標準記録突破を目指して申込締め切りとなるギリギリまで記録に挑戦しました。確定にはもう少し時間がかかるようですが、リレー種目も含めチャンスをもものにできた選手も出てきました。中でもすでに好記録を樹立し昨年の全国インターハイ優勝者に勝利を収めた大坂谷さんは全国高校記録に挑戦するなど進化を続けています。10月初旬には日本選手権への挑戦も決まっており、さらなる飛躍に期待が高まります。

野球部は、秋季大会1回戦で八鹿高校と対戦し、4-0で勝利。2回戦にコマを進めました。ここからは強豪私学勢との戦いが続き気も抜けなくなります。一戦一戦大事に戦い、勝利ながら力をつけていって甲子園を目指してほしいと思っています。ケガに気を付けて頑張ってください。

以上、9月中旬にもなると多くの部で大会が始まってきます。今度は4連休。大会だけでなく練習試合等新人大会に備えた練習も続けてしよし、すでに本番を迎えている部もあるでしょう。体調管理には気を付けるとともに、少し涼んできて油断すると熱中症ということにもなりかねませんので、自分だけでなく周りもしっかりと見渡して、お互いが気を付けるようにしてほしいと思います。もちろん新型コロナウイルス感染防止対策も含めて、よろしくお祈りします。

最後に、9月14日から15日間10月6日まで保健体育科で教育実習生が来ることになりました。神戸大学の塩川先生と環太平洋大学の山形先生です。塩川先生が3年2組、山形先生が1年2組を担当されます。一番身近な卒業生でもある相談できる先生が実習で来られています。若さ溢れる先生方です、どうぞよろしくお祈りします。